

令和5年度(令和4年度実施事業分) 主要事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

水道部上水道課

水道部長 大松季也

整理No	主要事業名	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
		自己評価	評価内容	方向性	内容
28-1	水道施設地震対策事業	C	大口径配水管改良工事については、昭和40年代に布設された耐震性に劣る配水管の布設替工事をほぼ計画どおり実施することができた。また、医療機関等重要給水施設への管路整備についてもほぼ計画どおり実施し、令和5年度に完了する見込みである。 今後も継続して、配水管整備計画等をもとに基幹管路の耐震化工事を実施し、大規模地震等に備えて強靱な水道の構築を図る必要がある。	拡充推進	大規模地震により水道の被害が想定されるなか、被災時のライフラインを確保することは市民の関心が高いところである。耐震管は、東日本大震災でもほとんど被害が発生しておらず、その耐震性能は高い評価を得ていることから、被災時に通水機能を確保する基幹管路の耐震化は必要不可欠であり最重要課題として積極的に継続して進めていく。
28-2	水道安定供給事業	C	新病院建設事業に伴う配水管布設工事については、所管課との調整により年次計画を変更したことにより先送りとなったが、その他、集合住宅への給水に伴う配水管増径工事や道路改良事業、J R 半田駅前土地区画整理事業など、社会基盤整備に併せた配水管布設工事を実施し、将来を見据えた管種・口径を選択し、安定した水道水を供給することができた。	拡充推進	配水管のブロック化については、半田乙川中部土地区画整理事業の進捗に合わせて実施する必要があるため、引き続き事業者と綿密に調整しながら早期完了を目指していく。また、新たな需要が見込まれる地域への配水管整備については、各関係者と綿密に調整することにより遅延が生じないよう実施していく。 今後は高度経済成長期に整備された施設や管路が更新時期を迎えることから、持続可能な健全な経営のもと、水道施設の適切な維持管理と計画的な更新及び再構築を進め、老朽化対策を実施していく予定である。
28-3	水道施設維持修繕事業	B	令和4年度から令和6年度まで実施する予定であった箇所を再調査した結果、1か所が未使用の水管橋、5か所が塗装修繕を早急に要しない結果となり事業計画を見直したことにより、令和4年度をもって必要箇所の防食塗装修繕を全て完了することができた。	終了	令和4年度完了
課等長	1次評価（令和4年度の総括評価）				
C	・水道施設地震対策事業では、南海トラフを震源地とする大規模地震による被害が想定されるなか、被災時に水道機能を確保するために耐震性に劣る基幹管路（主に300mm以上の配水管）の布設替え工事を実施し、耐震化率の向上を図った。また、被災時に早期給水を必要とする透析医療機関等の重要給水施設への路線について、耐震性の高い管路での整備を行い、水道施設機能の強化を図った。 ・安定供給事業では、集合住宅への給水に伴う配水管増径工事や道路改良事業、J R 半田駅前土地区画整理事業など、社会基盤整備に併せた配水管布設工事を実施し、将来を見据えた管種・口径を選択し、安定した水道水を供給することができた。 ・水道施設維持修繕事業では、水道施設の適切な維持管理を図るため、劣化した水管橋の塗装について防食塗装工事を実施し、水管橋の長寿命化を図ることができた。				
部等長	2次評価（令和4年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項）				
C	・職員の異動や経験年数の不足、実際に修繕工事を担う市内水道指定工事店の確保が困難な場合があるなど、災害時を含めた緊急時の対応力の確保が喫緊の課題である。夜間訓練を実施する等、実際の被害を想定した訓練を取り入れ、新たな課題を抽出することにより、更なる職員の防災に対する意識向上・職員間の連携強化を図った。今後は、水道指定工事店協同組合や包括業務委託を受注している㈱フューチャーイン等との連携強化を図り、緊急対応力を向上させる必要がある。 ・基幹管路、避難所等重要給水施設ルートの耐震化を最優先課題として積極的に進めているところだが、今後は旧土地区画整理事業において布設した耐用年数を経過した配水管の老朽化対策を並行して実施していく必要があるため、将来を見据えた整備、体制の構築、料金設定の検討など、具体的に取り組んで進める必要がある。				